編集後記

現在エジプトの政治情勢が悪く、私たちのような文化活動する者にとっては、なかなか進まないのですが、こういう時にこそ私たちは活動をしつづけることが大切だと思います。

幸い 9 月末現在で情況はかなりよくなってきていますので、ひとつひとつ着実に現地調査の方も再開していきたいと考えています。

又この時期であるからこそ調査の概報や本、報告書、研究、文献探しなど後方活動を順次進めていくことが肝要です。そういう意味でこの第 21 次、第 22 次調査概要報を出す意味は大きいのです。考えてみますとこのアブシール南丘陵遺跡調査も 22 回も行いました。初めの頃砂漠の丘の頂部で、強風にさらされながら電磁波探査レーダを引きずりながら遺跡の存在を確認したり、ボーリング棒で頂部を 1m おきにさし込み、一喜一憂したのを昨日のことのように想い出します。エジプトの政治情勢も世界の事情やアラブ諸国の情勢に左右されていましたが、いまやエジプト国内の問題となり、かえって私たちはやりにくくなっています。どの国、どの地域でもそうでしょうが、国内の情勢がおちついていませんと文化活動はままなりません。特にエジプトでは 2011 年 1 月の革命により警察の力がパワーダウンしてしまい、遺跡の管理が手うすになり、遺跡や博物館が盗賊団によって安全管理に支障をきたしています。しかし私たち外国人には何もするすべがなく歯ぎしりしている状態です。これを乗りこえていきませんと、本当の文化活動ではなくなってしまいますので、今後ともより一層の努力が必要となってきます。もともと考古学という学問分野は昔を知ることで、未来を想定するというものです。そういう意味においてこのような発掘の概報を世に出すことは不可欠なのです。今回も若手、いやもう若手ではなく中核となっている研究者の精一杯の努力に敬意を表します。何とかワセダのエジプト考古学の伝統―すでに半世紀です―を守りつづけていってほしいと願っています。

吉村作治